

# 京大広報

No. 395

京都大学広報委員会



霊長類研究所公開講座「霊長類の進化」実習風景 一関連記事 968 ページ

## 目 次

<大学の動き>	
西島総長, フィンランド共和国訪問……………	960
カレル大学, ボン大学との学術交流……………	960
名誉博士称号贈呈式……………	961
京都大学市民講座の開講……………	962
京都大学春秋講義(秋季講座)の開講……………	963
数理解析研究所 森 重文 教授が フィールズ賞を受賞……………	964
<部局の動き>	
公開講座	
文学部博物館「中国の石刻史料」……………	965
工学部「拡がりゆく工学」……………	965
農学部「農業簿記・農業経営講習会」……………	966
医療技術短期大学部「健康科学公開講座 一確かめて生きる一」……………	966
理学部「高等学校教育関係者のための 現代数学展望」……………	967
人文科学研究所「世界再読」……………	967
防災研究所「都市の防災」……………	967
霊長類研究所「霊長類の進化」……………	968
平成2年度文学部春季公開展示……………	968
医療技術短期大学部説明会……………	968
<訃報>……………	969
<資料>	
平成2年度実施の建物等……………	970
国立大学教官等の待遇改善に関する 国立大学協会の要望書……………	970
日誌……………	972
<随想>	
OD諸君をねぎらう……名誉教授 川村 俊蔵…	973
<コラム>	
万来軒の思い出……文学部教授 松尾 尊兌…	974

## 〈大学の動き〉

## 西島総長、フィンランド共和国訪問

西島総長は、8月4日から14日までフィンランド共和国へ出張し、ヘルシンキ大学で開催された第9回IAU（国際大学協会）総会に参加するとともに、同国における高等教育・研究機関について情報交換を行い、あわせてヘルシンキ大学創立350周年記念式典に出席した。

IAU 総会の第1委員会では、西島総長が議長となり、「文化の進歩と教育における大学の使命—普遍性のなかの多様性—」をテーマに活発な意見交換が行われ、また、学術交流に関する分科会では、東西ヨーロッパの激変が大学の教育・研究のあり方にも大きな影響を与えているなか、21世紀を目指す大学の使命について、言語、宗教、文化の面から熱心な議論が展開された。

なお、今回の出張には、及川三千男国際交流課長、貝塚唯生同課第二渉外掛長が同行した。

## カレル大学、ボン大学との学術交流

本学とチェコスロバキアのカレル大学及びドイツ連邦共和国のボン大学（ライニッシェ・フリードリッヒ・ウィルヘルム大学）との「学術交流に関する一般的覚書」が、このほど交換された。

これは、昭和63年12月にカレル大学長から、平成2年1月にボン大学長から、書簡により提案があったものである。

本学では、これについて検討を進めると同時に、国際交流委員会の答申（関連記事『京大広報』No. 363）に沿って同大学と協議を続け、カレル大学については平成2年1月、ボン大学については同年5月、互いに「覚書」を交換することが了承されたものである。

両大学の概要は次のとおりである。

## カレル大学

創立：1348年 教員数：2,840 学生数：23,950  
11学部（数学・物理学、自然科学、医学、小児医学、衛生医学、哲学、法学、ジャーナリズム、体育・スポーツ学、教育学、薬学）、2研究所

## ボン大学

創立：1786年 教員数：2,062 学生数：40,153  
8学部（福音主義神学、カトリック神学、法



第9回IAU（国際大学協会）総会の第1委員会で議長をつとめる西島総長

経学, 医学, 哲学, 数学・自然科学, 農学, 教育学), 6 研究所等

—The World of Learning 1990 より—

京都大学とカレル大学との学術交流  
に関する一般的覚書

京都大学総長とカレル大学長は, 両大学の教育研究の協力と交流を推進するために, ここに学術交流に関する覚書を作成する。

1. 両大学は, 特に次の諸活動を行うことを奨励する。

- (1) 学術資料, 刊行物及び情報の交換
- (2) 教員又は研究者の交流
- (3) 学生の交流
- (4) 共同研究及び研究集会の実施

2. 前項の諸活動の具体化については, 両大学又はその関係部局で協議のうえ実施するものとする。

3. この覚書を変更又は解消する場合は, 両大学の協議によるものとする。

4. この覚書は, 日本語及び英語で作成され, 両文書は等しく正文である。

平成2年(1990年)5月21日 平成2年(1990年)6月5日  
京都大学総長 カレル大学長  
西島 安則 ラディム・パロウシュ

京都大学とボン大学(ライニッジェ・フリードリッヒ・ウィルヘルム大学)との学術交流に関する一般的覚書

京都大学総長とボン大学(ライニッジェ・フリードリッヒ・ウィルヘルム大学)長は, 両大学の教育研究の協力と交流を推進するために, ここに学術交流に関する覚書を作成する。

1. 両大学は, 特に次の諸活動を行うことを奨励する。

- (1) 学術資料, 刊行物及び情報の交換
- (2) 教員又は研究者の交流
- (3) 学生の交流

- (4) 共同研究及び研究集会の実施
2. 前項の諸活動の具体化については, 両大学又はその関係部局で協議のうえ実施するものとする。
3. この覚書を変更又は解消する場合は, 両大学の協議によるものとする。
4. この覚書は, 日本語及び英語で作成され, 両文書は等しく正文である。

平成2年(1990年)6月18日 平成2年(1990年)6月27日  
京都大学総長 ボン大学長(ライニッ  
西島 安則 ジェ・フリードリッヒ  
・ウィルヘルム大学長)  
クルト・フライシュハ  
ウアー

名誉博士称号贈呈式

9月10日(月)午前10時30分から, 総長室において各研究科長及び関係者出席のもとに名誉博士称号贈呈式が挙行政され, アメリカ合衆国フロリダ大学大学院研究教授, スイス連邦工科大学教授ルドルフ・エミール・カルマン氏に名誉工学博士の称号が贈呈された。

また, 贈呈式の当日, 同氏の記念講演が本学附属図書館 AV ホールにおいて行われた。演題は「システム理論—その過去と未来」である。

以下に贈呈の趣意及び同氏の略歴を紹介する。



## (趣意)

アメリカ合衆国フロリダ大学大学院研究教授、スイス連邦工科大学教授 ルドルフ・エミール・カルマン氏は、自動制御の理論的基礎をはじめとするシステム理論を主題に、画期的な研究業績をうちたて、この分野における世界の研究者に多大の影響を与えてきた。

同氏は、当時まで自動制御理論の主流であった伝達関数を基礎とする体系に対し、線形常微分方程式系に対応する状態空間の概念を基礎として、現代制御理論と呼ばれる新たな体系を確立し、当時の自動制御理論が突き当たっていた問題点をつぎつぎと解決してきた。可制御性、可観測性の概念の発見、カルマン・フィルターの発見等は特に顕著な功績であり、今日その影響は、単に自動制御分野にとどまらず、ひろく信号処理、予測推定論、回路網理論、システム同定など数多くの分野に及び、また電気工学、機械工学、土木工学、航空宇宙工学、化学工学等の広い領域の学術研究の発展に大きな貢献をなした。

同氏は、早くから日本、特に本学との関係を重視し、過去5回の来日歴の全てにおいて本学を訪問し、学術講演、討論集会、若手教官の直接指導等を通じて、本学における研究推進に貢献した。同氏は、1971年10月、最初の来日の際我が国の主要大学を訪れたが、特に本学の研究グループとの学術交流の重要性を認識し、工学部及び数理解析研究所でシステム理論の基礎について講演するとともに討論会にも出席した。この時の講演と討論は本学の研究者に強い感銘を与え、本学における同分野のその後の研究に大きな影響を及ぼした。

他方、同氏は1974年から4年間本学の大学院生(現工学部助教授)を奨学生として受入れ、懇篤な研究指導を行った。また、本学の教官がフロリダ大学を訪れ同氏の主宰するセミナーに参加した際には、常に熱心に討論、意見交換を行うなど、直接、間接に本学における研究活動に貢献した。

同氏はまた、日米科学協力事業セミナー、日米科学協力事業共同研究の二つの共同プログラムのアメリカ側代表者として活動し、常に本学研究者

に参加を求め、これらの参加者を通じて本学の研究の発展に多大の貢献をした。

## (略歴)

- Rudolf Emil Kalman (ルドルフ・エミール・カルマン)
- 1930年 5月19日生、国籍 アメリカ合衆国
- 1953年 6月 マサチューセッツ工科大学卒業
- 1954年 6月 同大学修士学位取得
- 1957年 6月 コロンビア大学博士 (Dr. Science) 学位取得
- 1958年 RIAS 研究員、副主任
- 1964年 スタンフォード大学教授
- 1971年 フロリダ大学大学院研究教授 (Graduate Research Professor)
- 1973年 スイス連邦工科大学教授

## 京都大学市民講座の開講

本学では、来る10月20日、27日、11月3日の各土曜日に広く一般市民を対象とする「京都大学市民講座」を開講する。

本講座は、財団法人京大会館楽友会の協力の下に、昭和54年以来毎年開かれているもので、今年度は「ことば」を共通テーマに、総合大学の特色を生かして学問の諸領域にわたる講義が行われる。

受講定員 400名

受講料 1,500円

申込方法 往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入(返信用には、郵便番号、あて名を記入)の上、10月13日(土)までに庶務部研究協力課研究協力掛(内線2041、2043)へ申し込むこと。

なお、本講座を本学教職員には広く開放するため60名の特別受講枠を設けているので、受講希望者は所属部局の事務担当掛へ申し込むこと。

会場 法経第四教室・京都会館会議場

## 日 程

## 共通テーマ —ことば—

開 講 日	テ ー マ	講 師	会 場
第1日 10月20日(土) 13:00~16:40	開講のあいさつ	総 長 西 島 安 則	《会場》 京都大学法経第四教室 (京都市左京区吉田本町)
	ことばを生かすコンピュータ	工学部 助教授 西 田 豊 明	
	ホモ・ロクェンス —ヒトの進化と言語の進化—	教養部 教授 大 橋 保 夫	
第2日 10月27日(土) 13:00~16:30	未知の言葉を探る	文学部 教授 西 田 龍 雄	
	法における日本語	法学部 教授 川 又 良 也	
第3日 11月3日(土) 10:30~12:00 13:00~14:40	「ことば」の習得と子供の成長 —はなしことばからかきこと ばへ—	教育学部 教授 田 中 昌 人	《会場》 京都会館会議場 (京都市左京区岡崎)
	チンパンジー・アイの「こと ば」	霊長類研究所 助教授 松 沢 哲 郎	
	開講のあいさつ	工学部長 得 丸 英 勝	

## 京都大学春秋講義（秋季講座）の開講

本学では、財団法人京都大学後援会の協力により、下記のとおり「京都大学春秋講義（秋季講座）」を開講する。

本学教職員並びに学生については、別途30名の特別枠を設けているので、受講希望者は所属部局の事務担当掛へ申し込むこと。

## 記

## ☆月曜講義（5回シリーズ）メインテーマ『中世文化と現代』

開 講 日	講 師	テ ー マ
10月1日	名 誉 教 授 谷 川 道 雄	中国中世社会と人間
10月8日	文 学 部 教 授 興 膳 宏	中国中世の文学
10月15日	教 養 部 教 授 上 横 手 雅 敬	中世日本の現代性
10月22日	教 養 部 教 授 山 本 淳 一	騎士と貴婦人 —中世宮廷文学の世界—
11月5日	文 学 部 助 教 授 服 部 良 久	ドイツ中世の国家と首都

定 員 120名  
 受 講 料 6,000円  
 会 場 法経第二教室  
 時 間 午後6時30分～8時30分  
 申込締切日 9月20日(木)

## ☆水曜講義

開 講 日	講 師	テ ー マ
10 月 3 日	法 学 部 教 授 北 川 善 太 郎	未 来 か ら の 法
10 月 17 日	教 養 部 助 教 授 新 宮 一 成	精 神 分 裂 病 に つ い て
10 月 24 日	名 誉 教 授 日 沼 頼 夫	ウ イ ル ス の 話
10 月 31 日	生 体 医 療 工 学 研 究 セ ン タ ー 教 授 筏 義 人	人 工 臓 器 の 話
11 月 7 日	文 学 部 教 授 實 月 誠	社 会 制 御 の 考 え 方

定 員 120名

受 講 料 1 講 義 分 1,200円, 5 講 義 分 6,000円

会 場 法 経 第 二 教 室

時 間 午 後 6 時 30分 ~ 8 時 30分

申 込 締 切 日 9 月 20日 (木)

## ○申込方法

- ① 月曜講義・水曜講義の別々に往復はがきで下記へ申し込むこと。申込はがきには、住所・氏名・電話番号を書くこと。なお、水曜講義の場合は受講希望日を必ず書くこと。(返信用はがきにも住所・氏名を必ず書くこと。)
- ② 申込者が定員を超えた場合は、抽選により受講者を決定する。
- ③ 受講料は、受講決定通知を受領後、郵便局の所定の口座へ振込むこと。支払後の受講料は返金しない。

○ 受講資格は問わない。

○ 申込先 庶務部研究協力課研究協力掛 (内線 2041・2043)

### 数理解析研究所 森 重文 教授がフィールズ賞を受賞

今夏京都で開催された第21回国際数学会議において、本学数理解析研究所 森 重文教授にフィールズ賞が授与された。これは、小平邦彦氏(1954年受賞)、廣中平祐氏(1970年受賞)について、日本人としては3人目の受賞である。

フィールズ賞は、トロント大学フィールズ教授の遺産等をもとにして、1936年から、4年毎に開かれる国際数学会議において、40歳以下の卓越した数学者に授与される。現在までに、今回を含めて34人が受賞している。

森教授は、昭和26年2月23日愛知県に生まれた。昭和48年本学理学部を卒業、同50年本学大学院理学研究科修士課程を修了、同50年本学理学部助手、同55年名古屋大学理学部講師、同57年同大学理学部助教授、同63年同大学理学部教授を歴任の後、本年4月から、本学数理解析研究所教授として大域解析学研究部門を担当している。

奇しくも、森教授は、他の2人の日本人のフィールズ賞受賞者、小平邦彦・廣中平祐両氏と同じく代数幾何学の研究により受賞した。そこで、ここでは両氏との関連で森教授の業績を紹介する。

代数幾何学は、代数的手法により、幾何学(多様体)を研究する分野である。一次元多様体(曲

線或は Riemann 面)については, Riemann 等によって, 既に前世紀にその理論は完成された。

2次元多様体については, 今世紀初頭における Castelnuovo らのイタリア学派による研究の後, 小平邦彦氏によって深い研究がなされ一応の完成をみた。このときの重要な鍵となったのは極小モデルの存在である。ある曲面が与えられたとき, その一点を射影直線にふくらませて新しい曲面が得られる(爆発操作)。これは, その点を原点とする平面座標を極座標におきかえて表示することにあたる。逆にいえば, この新しい面の射影直線を一点につぶすこと(逆爆発操作)によりもとの曲面が得られる。このような逆爆発操作で, もうそれ以上つぶせない曲面が極小モデルである。

一方, 廣中平祐氏は, 特異点の解消問題を肯定的に解決した。すなわち, 特異点をもつ多様体を与えられたとき, その特異点で爆発操作をくり返すことにより特異点のない多様体得られることを証明した。

さて, 2次元以下の多様体の分類は一応の決着をみたが, 高次元多様体の分類は, 困難な問題として残されている。その一因は, 極小モデルの存在がわかっていないことである。

森教授は, 3次元多様体について極小モデルの存在を証明した。2次元の場合と同様に, なめらかな3次元多様体から出発して, 逆爆発操作をくり返して極小モデルが得られるが, その過程で特異性をもった多様体の出現も許さなくてはならないのが2次元の場合との大きな違いである(廣中氏の理論の逆操作)。

この極小モデルの存在定理により, 3次元多様体の分類問題が明らかになりつつある。

森教授は, 本年日本学士院賞を受賞したのをはじめ, 日本数学会彌永賞(昭和58年), 中日文化賞(昭和59年), 日本数学会秋季賞(昭和63年), 井上學術賞(平成元年), アメリカ数学会 Cole 賞(本年)を既に受賞している。

なお, 同教授の日本学士院賞受賞を報じた記事(広報 No. 391)を参照されたい。

以上のような, 森教授の目覚ましい業績に対して今般フィールズ賞が授与されたことはまことに慶ばしい。同教授の今後の研究の発展に期待したい。(数理解析研究所)

## <部局の動き>

### —公開講座—

#### 文学部博物館

##### 「中国の石刻史料」

文学部博物館では, 平成2年度文学部春季公開展示(968ページ参照)にあわせ4月28日から5月26日までの間, 4回にわたり土曜日の午後1時30分から4時まで, 同講演室において第7回公開講座「中国の石刻史料」を開催した。

この講座は一般市民を対象に, 本学並びに他大学の教官を講師陣として実施され, 中国石刻拓本の解説を通して, 各時代の政治や文化の特色を考え, また拓本鑑賞に役立つことを目指したものであり, 70名が受講した。

講義題目, 講師は次のとおりであった。

石に刻まれた中国史 文学部 竺沙 雅章  
秦漢時代の石刻 滋賀大学 佐原 康夫  
北朝・隋唐時代の宗教石刻

人文科学研究所 礪波 護

モンゴル時代の石刻

京都女子大学 杉山 正明

(文学部)

## 工学部「拡がりゆく工学」

工学部では, 6月16日から7月7日までの間, 4回にわたり毎週土曜日の午後1時30分から5時まで本学部大会議室において, 第10回目の公開講座を開催した。受講者は142名であった。

「拡がりゆく工学」をメインテーマに, 人間生活と文化の向上に貢献している本学部の最新の研究成果にもとづき, 今日一般市民が最も興味もっていると思われる題材を選んで, それぞれの現状と将来について分かりやすく解説することを主眼としたものである。

なお, 講義題目・講師は次のとおりであった。

自然環境の追求

川と湖の流れのシミュレーション

井上 和也

酸性雨・酸性霧	池田 有光
人間は人間にどこまで近づけるか	
脳の働きとニューロ・コンピュータ	
	西川 禎一
人工細胞は本当に造れるのか?	
	砂本 順三
生活の場を考える	
身近にあるフィードバック制御	
	片山 徹
集合のすまい	巽 和夫
金属材料とその周辺	
形状記憶合金の話	三浦 精
貴金属の今昔	小野 勝敏
	(工学部)

### 農学部「農業簿記・農業経営講習会」

農学部・農業簿記研究施設では、7月11日から16日までの6日間、本学部講義室において公開講座「第54回農業簿記・農業経営講習会」を開催した。

この講習会は、農業簿記とそれに基づく農業経営の分析・診断・計画並びに農業投資・地域計画などに関する理論と実務の普及を目的としたものである。講習会には農業改良普及員、農林行政担当者、農業協同組合職員、高校教員その他団体職員など、北海道から九州まで全国各地から92名が参加し、連日午前9時から午後5時まで受講した。

講義科目、講師は次のとおりであった。

農家経済簿記及び農家経済の分析・診断

稲本 志良・辻井 博・桂 利夫

農業経営複式簿記の原理と応用

稲本 志良・桂 利夫

農業投資及び資金の計画・管理・分析

亀谷 晃・辻井 博

地域農業及び農業経営の分析・診断・計画

藤谷 築次・武部 隆・新山 陽子

(農学部)

### 医療技術短期大学部「健康科学公開講座—確かめて生きる—」

医療技術短期大学部は、一般市民を対象に第3回健康科学公開講座を、7月7日から28日までの間、4回にわたり毎週土曜日の午後、本短期大学部講義室において開催した。

本年度は「確かめて生きる」をテーマに、からだの健康とこころの健康をどのように確かめるのか、また、それらをどのように増進すれば良いのかを下記の講義題目についてそれぞれの専門分野の立場から講義した。

講座は、91名の受講者を対象に西島学長の開講のことばに始まった。毎回の講義では活発な質疑応答がなされ、最終回の講義のあと齋明寺部長の講座のまとめと謝辞で閉講した。

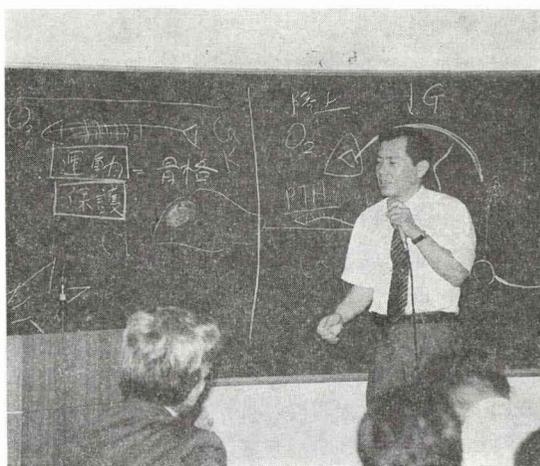
7月7日 健康な心臓とは 神原 啓文  
情報の宝庫—血液と尿—

7月14日 血圧と健康 田畑 勝好  
臨床検査よりみた健康 松永 正人  
富田 仁

7月21日 こころと健康 田原 明夫  
骨の老化と健康 笠原 勝幸

7月28日 成人病を防ぐ食事と栄養 前田 圭禧  
妊娠と健康—最近のポイント—

城戸 國利  
(医療技術短期大学部)



## 理学部「高等学校教育関係者のための現代数学展望」

理学部数学教室では、平成2年7月26日から8月1日までの6日間、標記の公開講座を数学教室講義室において開催した。数学の発展が数学教育に大きな影響を与えていることに鑑み、この公開講座は、主として高等学校の数学教育関係者を対象に、いくつかの話題を選び、数学の最近の発展についての展望を与えることを目的としている。

12年目の今年、各地から34名の受講者があった。講義題目と講師は次のとおりであった。

ゼータ関数入門	吉田 敬之
平面上のタイル張りとその対称群	西山 享
3次元多様体について	足立 正久
確率における直観と数理	渡辺 信三 (理学部)

## 人文科学研究所「世界再読」

人文科学研究所では、夏期公開講座を8月1日から3日間、午前9時より正午まで本研究所本館大会議室において開催した。

1949年以来41回目を迎えた本年の講座は「世界再読」を共通テーマとし、連日約100名の受講者があった。講義題目・講師は次のとおりであった。

古文の現代語訳—その源流と 原理をめぐって—	T. ハーパー
「内地」と「外地」—明治憲 法と日本植民地—	山本 有造
最近の中国からの人材流出	小林 敦子
性の刑罰—宮刑—	富谷 至
知的エリートと民主主義 —ヴィクトリア朝イギリス の社会再編—	光永 雅明
日本の城とヨーロッパの城	山下 正男 (人文科学研究所)

## 防災研究所「都市の防災」

防災研究所は、8月21日と22日の両日午前10時から午後5時まで、大阪市西区の建設交流館において、第1回京都大学防災研究所公開講座「都市の防災」を開催し、114名が受講した。

この講座は、一般市民を対象として、自然災害の発生とその対策についての基礎的知識から最新の研究成果までの解説を行うものである。今回は特に地震災害と集中豪雨に伴う災害を中心に、第1日目は「都市と地震」をテーマに6講義を、第2日目は「都市と集中豪雨」をテーマに5講義を行った。

それぞれの講義題目・講師等は次のとおりであった。

### 第1日(8月21日)

総説—都市に起こる自然災害と防災—

京阪神における地震活動—日本書紀の記録から現在まで—	田中 寅夫
地震波の伝播—地震で地面はどのように揺れるのか—	岸本 兆方
地盤の液化化—地震を受けて地盤が融ける—	入倉 孝次郎
建物の耐震安全性—五重塔から超々高層建物へ—	柴田 徹
都市震害の経験に学ぶ—都市の耐震性は向上しているか—	藤原 梯三
	亀田 弘行

### 第2日(8月22日)

最近の都市豪雨災害について—1982年7月の長崎豪雨災害を中心に—	芦田 和男
集中豪雨の気象学—集中豪雨の正体を探る—	光田 寧
豪雨と山崩れ—都市域に特徴的な崩壊災害とその対策—	奥西 一夫
土砂氾濫のメカニズム—土石流はいつどこに災害をもたらすか—	高橋 保
都市化と洪水—コンクリート砂漠にあふれる水—	角屋 陸
	(防災研究所)

## 霊長類研究所「霊長類の進化」

霊長類研究所では、8月23・24日の両日にわたって公開講座を開催した。今年は第6回目である。

参加者は中・高校教員が圧倒的に多いものの、予備校生、会社員、主婦と幅広い。例年どおり大多数は東海地域在住者であるが、近畿や遠くは盛岡からの参加者もあった(参加者80名)。今回は、霊長類の特徴を大脳生理学、遺伝学、動物社会学、人類学の観点から取り上げ、さらに現在、直面している人間の問題まで話題を押し進めた。また、参加者全員に対し実習を行い、研究の現状がよく理解できるように配慮した。

講義題目と講師は以下のとおりである。

総合司会 相見 満

脳の発達	林 基治
ニホンザル集団の遺伝学的構造	野澤 謙
家族の起源 —ゴリラの社会学—	山極 寿一
人間の条件を探る	江原 昭善
神経生理学実習	三上 章允
心理学実習	松沢 哲郎
形態学実習	相見 満

(霊長類研究所)

## 平成2年度文学部博物館春季公開展示

文学部博物館では、6月2日(土)正午で平成2年度春季公開展示を終了した。展示内容、入館者数は次のとおりである。

また、本春季公開展示にあわせ、4月28日から5月26日までの間4回にわたり毎週土曜日の午後、公開講座「中国の石刻史料」を開催した。(965ページ参照)

期 間	展 示 の 名 称	入 館 者 数				
		一 般	学 生	職 員	特 別 観 覧	計
4/10~6/2	中国石刻拓本展	1,200	1,100	231	252	2,783
	古代日本文化の展開と東アジア					

(特別観覧とは学術研究、視察その他博物館運営研究及び施設見学等である。)

## 医療技術短期大学部説明会

医療技術短期大学部では、7月23日(月)午前9時30分より13時まで、本短期大学部についての説明会を開催した。

説明会には高校生225名、高校進路指導教諭11名の参加者があった。

説明会では、まず大講堂において、参加者全員

に本短期大学部の特色、入試概要、各学科の教育内容などが、資料及びスライドを用いて説明された。

次に学内施設見学があり、5グループに分かれて、約1時間学内を見学した。

最後に、各学科ごとに分かれての個人相談を行い、参加者と教官との懇談の機会を設けた。また、学生生活や入試に関する一般的な相談にも応じた。

参加者の92.8%がアンケートに応じ、その内の98.2%がこの説明会が参考になったと回答している。  
(医療技術短期大学部)



医療技術短期大学部説明会風景

## 計 報

### 佐々木 申二名誉教授

本学名誉教授 佐々木 申二<sup>のぶじ</sup>先生は、7月23日逝去された。享年93。

先生は大正9年京都帝国大学理学部を卒業、本学講師、助教授を経て、昭和2年理学部教授に就任、同34年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を授与された。この間、昭和16年7月から18年8月まで本学評議員、26年4月より28年3月まで理学部長をつとめられたほか、評議員としても大学の管理運営に貢献された。退官後はノートルダム女子大学教授となり、54年に退職された。

先生の専門は主として化学反応の微細機構の研究であるが、手法として日本で最もはやく超高真空物理化学、分子線、質量分析、電子顕微鏡などの方法をとられられた。また、本学における液体ヘリウムを用いた極低温研究の先べんをつけられた。

これら一連の研究活動、学術上の貢献に対し、昭和12年日本化学会賞、18年日本帝国学士院賞を受賞されたほか、電子顕微鏡学会、日本金属学会、毎日新聞社などからも賞を受け、42年には勲二等旭日重光章を授与された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。(理学部)

### 桑原 正信名誉教授

本学名誉教授 桑原正信先生は、7月27日逝去された。享年85。

先生は、昭和9年京都帝国大学農学部を卒業、本学助手、助教授を経て、同23年農学部教授に就任、同43年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を授与された。この間、33年11月から35年10月まで京都大学評議員、33年4月から43年3月まで農学部附属農業簿記研究施設長を歴任され、大学の管理運営に貢献された。

本学退官後は、滋賀大学学長を務められた。

先生の専門は農林経済学で、中でも農業計算学の研究において数多くの優れた研究業績を残された。主な著書に『慣行小作権の研究』、監修書に『現代農業協同組合論』(全3巻)等がある。

これら一連の研究活動、学術上の貢献に対し、昭和50年には勲二等瑞宝章を授与された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(農学部)

### 中務 俊昌名誉教授

本学名誉教授 中務俊昌先生は、7月28日逝去された。享年68。

先生は、昭和21年京都帝国大学法学部を卒業、大学院特別研究生、京都大学法学部助手、同助教授を経て同37年12月同教授となり、同60年3月停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を授与された。

この間、教授・助教授として永年に亘り、民事訴訟法及び破産法の講義を担当され、教育・研究指導に専念された。

先生の学問的業績は、判決手続、証拠法、破産法、強制執行法、保全処分法、裁判制度論と多方面にわたっているが、昭和20年代には、当時新しく導入された英米法に解発されて証拠法の研究をすすめ、アメリカ法の影響をうけて混乱期にあった我が国の裁判実務に指針を与えられた。昭和30年代からは当時の社会的背景のもとで重要性を増しつつあった保全処分とくに仮処分に関心を移さ

れ、一連の論文によって未だ十分解明されていない  
 かったこの分野で先駆的業績を残された。さらに  
 その頃の学界の動きに呼応しつつ裁判制度へも研  
 究を広げ、弁護士制度や法律扶助について業績を  
 挙げられた。また、判決手続に関しては準備手続  
 拡充の可能性をめぐる一連の業績があり、これら  
 は今秋から始まる民事訴訟法の全面改正の審議に  
 も影響を与えるものと予測される。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(法学部)

### 吉田 博行原子炉実験所助教授

本学原子炉実験所助教授 吉田博行先生は、8月  
 7日逝去された。享年58。

先生は、昭和36年3月京都工芸繊維大学工業短  
 期大学部卒業後、同年4月京都大学工学部技能員  
 に採用され、同39年4月に同学部助手、同40年4  
 月に原子炉実験所助手に配置換になり、同53年7  
 月助教授に就任された。

先生の専門は金属物性学で、特に金属材料の原  
 子炉照射効果の研究で数多くの優れた業績をあげ  
 られた。発表論文数は100編以上を数え、主な論  
 文並びに著書として『金属顕微法とその応用』『超  
 伝導と中性子』『実験物理学講座Ⅱ』等があるな。  
 お、1981年には日本金属学会から金属組織写真賞  
 が授与された。

また、先生は本学の学部及び大学院生のみなら  
 ず、原子炉実験所の共同利用に來所した他大学の  
 研究者・学生の教育・研究指導に熱心に取組み、  
 多数の優秀な後進を育成された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(原子炉実験所)

### <資料>

#### 平成2年度実施の建物等

今年度実施の建物等は次のとおりである。

建築施設名	延面積	竣工予定 時期	備 考
医学部附属病院 中央診療・臨床研究棟	m <sup>2</sup> 31,428	平成4.3.31	地上8階 地下1階

### 国立大学教官等の待遇改善に 関する国立大学協会の要望書

国立大学協会第86回総会において、国立大学教  
 官等の待遇改善に関する要望が決議され、下記要  
 望書が文部大臣及び人事院総裁に提出された。

平成2年6月26日

国立大学協会会長  
 有馬 朗 人

#### 国立大学教官等の待遇改善に関する要望書

国立大学教官等の給与等の待遇改善について  
 は、人事院をはじめ関係機関の特段の配慮を得て  
 改善がなされてきたところであり、そのことにつ  
 いては、関係各位のご努力に対して深く感謝する  
 次第であります。

いうまでもなく、近年、教育改革の問題が焦眉  
 の国家的課題とされ、大学についても、教育・研  
 究の充実整備が課題となっていることは周知の事  
 実であります。大学の教育・研究体制の改革は、  
 その担い手である大学教官等の資質の向上が基本  
 的前提条件であり、そのためには、大学教官等に  
 有為な人材を確保できるよう待遇改善を図ること  
 が急務であります。

しかしながら、それは未だ十分であるとは言  
 いがたい状況にありますので、以下の諸点につき特  
 段の措置を講ぜられるよう、重ねて強く要望する  
 次第であります。

#### 記

1. 教育職(一)の俸給水準の引き上げを行う等  
 を含め俸給体系を是正すること。

大学は高等教育および学術研究を推進・発展  
 させる中心の存在として社会の負託に応じて、  
 その任務を果たしている。科学技術の著しい進  
 展と国際化の時代にあつて、その責務は益々増  
 大しているところである。そのときにあつて、  
 大学の教学の中心の担い手は大学教官であり、  
 教育・研究について絶えざる情熱と高い能力  
 を有する優れた人材を擁することは大学の根

本であることに鑑み、その俸給をその職務と責任に見合う水準に引き上げるよう特段の配慮を強く要望する。特に近年国立大学の教官の給与水準が私立大学のそれを大幅に下回っている実態が人材確保の障害の要因ともなっていることに配慮しその急なる改善が待たれる。

また、あわせて助手について高校教諭の給与を下回る実態や教務職員の給与の頭打ち等の問題があり、これら職員の格差是正を図る。

なお、以上の俸給水準の引上げと同時に中堅教官について早期に最高号俸に到達するよう改善するとともに、現行の昇給延伸制度についても、教官の職の高学歴による高年令就職等による特殊性に着目してその年令の引上げを図る。

## 2. 大学教官特有な職務に見合う手当として「大学研究調整額」（仮称）を新設すること。

大学教官は、高度の専門教育を行うばかりでなく、進展極まりない学術の研究について一定の業績を常に要請される。そのため、各種学会活動や独自の情報の収集等多様な研究活動を遂行することが必須となっている。

この特別な経費負担に対する措置として「大学研究調整額」（仮称）の新設を図る。

なお、職務の特殊性に基づき支給されているものとして、義務教育教員には「教職調整額」、医療職（一）職員については「初任給調整手当」がある。

## 3. 教育・研究支援職員等の待遇の抜本的改善を図ること。

当国立大学協会は、かねてより大学特有の専門職である技術職員等の教育・研究支援職員の抜本的な待遇改善を要望し、新設された「専門行政職俸給表」の適用を切望してきたが、これら職員の現状が同俸給表を適用できる状況に置かれていないとして、その適用が見送られてきたところである。

大学における教育・研究支援職員の教育・研究に果たす役割は大きく、かつ、不可欠なものであり、俸給表の種類にかかわらず、これら職員の俸給をその職務と責任に見合う水準に引き上げるよう措置する。

当協会としても、教育・研究支援職員の在り方について、先に、各国立大学に対し、教室系技術職員の組織化および研修等についてその実現方を要請し、現在までに一部大学が実施に至っている。今後のこれらの整備の動向をふまえて「専門行政職俸給表」への移行を早期かつ円滑に実現できるように努力したい。

## 4. 部局長（副学長、学生部長、事務局長等を含む。）について指定職の完全適用を図ること。

部局長等は、その職務と責任からして指定職の適用を受けるのが当然の措置であるが、未だ定数が十分でないために、すべての部局長等が指定職の適用を受けているわけではない。

指定職制度は、特定の職務就任を条件に適用するのが本来の趣旨であることを踏まえ、部局長等については、その在任期間中はすべて指定職俸給表が適用出来るよう措置する。

また、特に教育、研究の功績顕著な教授に対して指定職俸給表の適用を拡大する。

## 5. 管理職手当の適用対象を拡大すること。

近年、大学における管理運営の職責が益々重くなりつつある実情に鑑み、評議員、全学段階の委員等の学内教育行政の要職にある者については、管理職手当支給の途を開くよう特に配慮する。

## 6. 大学の中堅職員（事務系）の待遇改善を図ること。

大学においては、事務長、補佐、係長等の定数が固定化されており、豊富な職務経験、職務遂行能力を持つ適任者でありながら、昇任・昇格が限定されるために俸給の上で格差を生じている。このことは、大学の中堅職員等に職務遂行意欲を欠くこととなり、ひいては大学運営の業務に重大な影響を及ぼす結果となりかねない。

よって、この際、大学の特殊性を十分に考慮し、これら役付き職員と同等の資格、能力を有する者には、専門職員制度を拡大して適用するとともに上位の級別定数について特段の措置を図る。

## 日 誌

(1990年6月1日～8月31日)

- 6月9日 アメリカ合衆国 Brown 大学 James McClain 助教授来学, 総長と懇談
- 12日～14日  
平成2年度京都大学中堅職員研修(第2回)
- 15日 創立記念行事「学術講演会」
- 16日 工学部公開講座「拡がりゆく工学」(以後、6月23日, 30日, 7月7日)
- 18日 創立93周年記念式典  
〃 名誉教授懇談会
- 19日 創立記念行事「音楽会」
- 20日 教養部公開シンポジウム「大学教育に何を望むか—大学改革の展望—」  
〃 国際交流委員会  
〃 国際交流会館委員会  
〃 アメリカ合衆国 Johnson C.Smith 大学 Robert Albright 学長来学, 総長及び関係教官と懇談
- 22日 同和問題委員会  
〃 附属図書館商議会
- 26日 評議会  
〃 大学院審議会
- 7月4日 アメリカ合衆国 Washington 大学 James Donnen 国際交流担当専門官ほか6名来学, 総長及び関係教官と懇談
- 7日 医療技術短期大学部「健康科学公開講座—確かめて生きる—」(以後7月14日, 21日, 28日)
- 9日 総長, 大学院生協議会と会見
- 10日 評議会
- 11日 農学部公開講座「農業簿記・農業経営講習会」(16日まで)
- 17日～19日  
平成2年度京都大学技術職員研修(第4回)
- 7月18日 英国文化センター Roderick Pryde 館長ほか3名来学, 総長と懇談
- 20日 連合王国 Reading 大学 Ewan Page 学長来学, 総長と懇談
- 24日 タンザニア 連合共和国 Gombe National Park, Jane Goodall 所長来学, 総長及び関係教官と懇談
- 26日 理学部公開講座「高等学校教育関係者のための現代数学展望」(8月1日まで)
- 30日 学位授与式
- 8月1日～3日  
人文科学研究所公開講座「世界再読」
- 4日～14日  
総長, IAU 第9回総会に出席並びに高等教育・研究機関の実情調査のため, フィンランド共和国を訪問
- 16日 在大阪中華人民共和国総領事館 千 昌奎 総領事ほか2名来学, 総長と懇談
- 21日～22日  
防災研究所公開講座「都市の防災」
- 23日～24日  
霊長類研究所公開講座「霊長類の進化」
- 25日 ドイツ連邦共和国 Alexander von Humboldt 財団 Wolfgang Paul 前総裁来学, 総長及び関係教官と懇談
- 27日 フランス共和国 Paris 第7大学 Le Dung Trang 教授来学, 総長と懇談  
〃 アメリカ合衆国 California 大学 Berkeley 校 Vaughan Jones 教授ほか11名(フィールズ賞受賞者等)来学, 総長及び関係教官と懇談
- 27～29日  
平成2年度京都大学中堅職員研修(第3回)



